

中間検査チェックシート

F (軸組)

(大造軸組工法)  
中間検査申請時における最新の確認について記入します。

平成22年 5月 9日

(あて先) 川崎市 〇〇 区 〇〇-〇-〇

建築確認年月日・確認済証番号	平成22年 4月10日 第H22確更建築川崎市本〇〇〇〇〇号		
建築主氏名	〇〇 〇〇		
建築場所	川崎市 〇〇 区 〇〇-〇-〇		
報告者 (工事監理者)	事務所名	(株)〇〇設計事務所 電話△△△ (△△△) △△△△	
	所在地	川崎市△△区△△-△-△	
	氏名	×× ××	

設計図書と施工状況を照合した結果を以下のとおり報告します。

建築確認図書と施工状況の照合結果 (建築確認図書からの変更)

- 変更なし  
 変更あり・・・変更概要 (木材の種類の変更、床構面の仕様の変更)

・工事監理の状況

確認事項	内容	チェック結果	検査機関用※	
1 確認事項		適・不・未		
2 敷地	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間検査申請時における最新の確認と照合した結果を記入します。</li> <li>確認図書と施工状況に違いがある場合には「変更あり」にチェックし、必要な手続きを行ってください。ただし、工事施工者へ違いを是正するように指示した場合は「変更無し」にチェックしてください。</li> <li>軽微な変更がある場合は、中間検査申請書第3面11欄の記載内容を変更概要に記載して下さい。</li> </ul>			
3 敷地	建ぺい率 (2)	建物形状、配置、寸法	適・不・未	
4 道路斜線	(1)	確認図書との照合 (離れ、配置)	適・不・未	
5 高度地区	(1)	確認図書との照合 (北側敷地境界からの建物の離れ、高さなど)	適・不・未	
6 居室の採光、換気	(1)	外壁の開口部の位置・大きさ	適・不・未	
7	「不」の場合には、「工事施工者への指示記録」欄に工事施工者へ指示した内容 (是正指示) を記入するか、「設計図書の内容について設計者に確認した事項」欄に設計者に変更の承諾を取った旨を記入します。なお、後者			
8	の場合において確認図書に変更がある場合には、さらに「建築確認図書と施工状況の照合結果」の「変更あり」にチェックします。			

《注意事項》

- ・チェック結果欄は、現場で施工状況を確認し、結果を○で囲んでください。(該当しない項目は記入しないでください。)
    - 「適」→建築確認図書及びその他設計図書のとおり施工されているもの
    - 「不」→建築確認図書及びその他設計図書のとおり施工されていないもの
    - 「未」→未施工のとき
  - ・「不」、「未」の場合は、裏面の「指示記録」欄に、項目番号 (例: 1(1)) と現場で指示した内容を記入してください。
- ※ 枠内には記入しないでください。

《裏面もあります》

	確認事項	内容	チェック結果	検査機関用※
9	建築物全体	(1) 間取り（柱・横架材・壁・床の位置）	適・不・未	
		(2) 防腐、防蟻措置	適・不・未	
		(3) 材種（柱・土台・横架材）	適・不・未	
10	土台	(1) 基礎との緊結（アンカーボルトの配置）	適・不・未	
11	柱	(1) 柱の小径	適・不・未	
		(2) すみ柱	適・不・未	
12	横架材	(1) 構造耐力上支障のある欠込みがないこと	適・不・未	
13	筋かい	(1) 欠込みがないこと	適・不・未	
14	構造耐力上必要な軸組など	(1) 耐力壁の配置、種別	適・不・未	
		(2) 火打材（水平構面の剛性）	適・不・未	
		(3) 小屋組の振れ止めなど	適・不・未	
15	構造耐力上主要な部分である継手又は仕口	(1) 筋かいの端部における仕口（筋かいプレートによる接合）	適・不・未	
		(2) 柱脚及び柱頭の仕口	適・不・未	
		(3) 使用金物の規格、品質	適・不・未	
		(4) 横架材の継手、仕口	適・不・未	

・設計図書の内容について設計者に確認した事項

・使用する木材の種類を変更（無等級べいつが→無等級あかまつ）することについて設計者に了承を得た。
・構造用合板により水平構面の一体化を図ることで火打材を省略することについて設計者に了承を得た。14 (2)

この欄は、設計図書に係るすべての内容が記入の対象となります。

・工事施工者への指示記録

項目番号	指示日	指示内容
14 (3)	5/5	振れ止めが未施工のため、中間検査日までに施工するよう指示
15 (2)	5/5	確認図書と異なる接合金物を使用していたため是正を指示

検査機関記録※


※ 枠内には記入しないでください。